



尾鷲市ゼロカーボンシティ宣言

～「22世紀に向けたサステナブルシティ」の実現に向けて～

地球温暖化の影響

尾鷲市への
影響

日本としての
コミット



100年後も、この美しいふるさと尾鷲を残したい

環境教育の強化必要性

出生数減
転出者増

自然を生かした
教育の可能性



新しい教育モデルを構築し、子育て世帯の教育移住を促進する

〈目指す姿〉

22世紀に向けた サステナブルシティの実現

- ・100年後にこの美しいふるさと尾鷲を引き継いでいく
- ・そのための基盤として、“環境に関するサステナビリティ”としての“脱炭素”と、“地域社会に関するサステナビリティ”としての“教育”を構築していく
- ・並行して森林資源・海洋資源の保全を通じて、気候変動に関する課題だけではなく、F S C国際森林認証の理念による生物多様性や文化的価値の維持といった課題にも向き合っていきます

22世紀に向けた サステナブルシティの実現

経済活動、暮らし方をアップデートする施策

施策の柱①
脱炭素(炭素固定)
森林資源・海洋資源の保全を通じた
温室効果ガス吸収量の増加

施策の柱②
脱炭素(排出削減)
温室効果ガス排出量の削減

施策の柱③
教育
豊かな森林資源・海洋資源を
生かした新しい教育モデルの検討

“環境”に関する
サステナビリティの基盤

“地域社会”に関する
サステナビリティの基盤



施策の柱①

脱炭素（炭素固定）

森林資源・海洋資源の保全を通じた
温室効果ガス吸収量の増加

- 温室効果ガスの吸収量増加
- 環境価値（Jクレジット）としての
見える化を通じた林業の新しい価値づくり
- 間伐材利用による中長期での炭素固定



施策の柱②

脱炭素（排出削減）

温室効果ガス排出量の削減

- 自然環境を損なうことなく、省エネや再生可能エネルギーの取組推進
- 2050年の中長期のまちづくりの検討を通じて構造的に温室効果ガスの排出量を削減



施策の柱③

教育

豊かな森林資源・海洋資源を
生かした新しい教育モデルの検討

- 市内の豊かな森林資源・海洋資源を
生かした新しい教育モデルを模索
- 具体的には、尾鷲市内の小中学校を中心
とした「山育・木育」「川育・雨育」「海育・とと育」
などの自然環境学習プログラムの実施
- 「里山」「里海」「まちなか」をつなぐ
“新しい教育”拠点の検討

尾鷲市は“100年後も地球と生きる”を
コンセプトとして、持続可能な地域社会を
目指したコンソーシアム
Sustainable Innovation Lab(以降「SIL」)
に2021年に加盟している

SILのコンソーシアムに所属する業・団体と
連携しながら、2022年度より
“脱炭素と教育のまち 尾鷲”の
具現化を本格的に進めていく



具体的には、2022年度において、 以下の企業・団体の参画により取り組みを進める

- ・日本郵政株式会社:ローカル共創イニシアティブによる社員派遣
- ・ヤフー株式会社:Yahoo!JAPAN地域カーボンニュートラル促進プロジェクトによる企業版ふるさと納税の寄附
- ・一般社団法人Next Commons Lab:脱炭素×教育に関する全体戦略、コーディネート
- ・三ッ輪ホールディングス株式会社:脱炭素化に関する全体設計、推進
- ・合同会社シーベジタブル:藻場造成、海藻養殖などによるブルーカーボン創出研究
- ・尾鷲商工会議所:市内事業所を中心とした脱炭素活動の啓発・推進
- ・一般社団法人つちからみのれ:脱炭素×教育に関する具体化、市内実装

